

「音姫」を見て「おとめ」と読むか「おとひめ」と読むかで趣味がわかっちゃうよなあと前から思っているのですが、いかがでしょうか。明らかに今日のイベントにあっていないネタなんですけど。同様に「ディープスロート」って聞いて「フェラチオの技法」か「内部告発者」か。私はいずれも、積極的に前者の人です。なので、昨年末NHKドラマ『ハゲタカ』がたまたま映っていたとき、「ディープスロート」って出てきてすげー焦りました。今や一般に使う言葉なのか？ あたしってば時代遅れ？ みたいな。いや、同作が社会派ドラマだと知っていれば、エロゲと勘違いすることはありませんでしたがね。事前情報重要。

断然音姉派の私ですが、音姫はいまいち理解できません。音姫の音ってそれと識別しやすい音で、結構な音量だからトイレの外まで聞こえるんですね。対隣接個室内女性には本来の狙い通り有効かも知れませんが、対隣接廊下歩行人物には逆に「あー、この人」となります。音姫使わなきゃバレない

のにね。そもそも「音で音を隠す」だけならフラッシュバルブ流水音じゃなくてもいいよね。「ああっ、らめっ、もれちゃう、もれちゃうのおっ」とかさ。今、確実に、女性に不評な

bye bye, myself.

のは不本意。そのうち音姫もノイズキャンセル技術が盛り込まれて、用を足している最中が無音になると思うよー、とか書いて支持を得たつもりになりましょう。結構、本気の予想。

さて、今日の絵は『ネオアンジェリーク Abyss』よりアンジェリーク。いつもに増して似てない。もう少し顔を細くしてあげなきゃいけませんね。同作はネオロマンスなのに意外とヒロインが卑屈にならないことに満足と不足を感じます。ハイソサエティ

と卑屈さはお約束だと思ってたのに。今期一の美少女ヒロイン、アンジェですが、おっとりしすぎの嫌いはありますよね。芯が強いのはわかりますが、

もう少し跳ねっ返り感が欲しい。レインから「貸してっ」と拳銃を奪ってぶっ放すこともあるくらいの子が好き。とゆわけで、そんな感じに。でも持たせたのはWalther PPS (のつもり)。ちなみに英語っぽいのは多分英語じゃない。

「バイバイ、昨日の私」っぽくと書いて思い出した。某社のお人形スーパードルフィーとは「もうひとりのわたし」って名言を含む入門小冊子があるんですよ。もうひとりのわたしをお迎えするってなんかおかしくね？ とゆーのもあるんですが。思いついたセンスが凄いなと。恥ずかしくなるような小説も書いている私ですが、そこまでのセンスはないなあ。すっかり脱帽です。私のプライドってのは「負けたままではいられない」なので、こりゃもう私もおバカな科白考えちゃうぞっ！

とゆわけで、次回予告。杜の奇跡12(5月25日、仙台)では

合同コピー誌に新作を投入予定です。「シンデレラ」がテーマの同誌なので、久々直球ヒロインを描きます。私以外の方々が高度な変化球を投げるようですが、気にしない。ま、相変わらずプロットすら書けていない状況なんですけど。頭の中では割とアイデアが出てきているので、何とかなるかな。

では、仙台で。妹が起こしてくれなくて遅刻ってことにならない限り、朝からちゃんといます。結局新幹線で行くことになりそう。山梨と時間的な距離はあんまり変わらないのよね。